

サッカークラブマネジメントにおける地域特性の影響について

The Influence of Local Features in Football Club Management

1K10C098 小潟 巖

主査 武藤泰明 先生

副査 松岡宏高 先生

【目的】

現在のサッカークラブのマネジメントには、グローバル化と地域密着という二面性がある。一部のクラブは、国境を越えた巨大資本の流入や莫大な放送権料によって、多額の運用資金を持ち、ビッグクラブとしてグローバルなコンテンツになっている。一方、その他の多くのクラブは、グローバル化に伴うリーグ間、または、クラブ間格差の中、地域密着を基盤とするマネジメントに活路を見出そうとしている。この流れの中で、クラブと地域社会の関係性は、一層重要なものになっている。

本研究では、地域社会の様々な側面を調査し、その特徴を明確にし、それぞれのクラブが、どういった社会基盤の中で存在するのかを確かめ、地域特性がクラブマネジメントに与える影響を明確にすることが目的である。

【方法】

調査対象クラブとして、イングランドの Norwich City と Wolverhampton Wanderers、Jリーグのベガルタ仙台のクラブの現状と、そのホームタウンである地域の現状を、実績、歴史、統計データを調査することによって、明確化する。その後、比較分析することによって、その共通点、相違点、クラブのマネジメントや実績との関連性、問題点を考察していく。

【結果】

クラブ、地域社会の実績、歴史、様々な統計データを調査することによって、クラブを支える地域社会の特徴、問題点などを深く知ることが出来た。

Norwich は、中世まで北海貿易で栄え、産業革命には取り残され、故に中世の趣を色濃く残す地域である。白人の人口比率と労働年齢人口比率が高く、貧困、低賃金、低学力などの問題を抱えている。このような特徴を持つ地域が、調査対象の中で、最も良い集客力、98.4%の集客率、プレミアリーグで中位をキープしている小規模地方クラブのホームタウンであることを確認することが出来た。

Wolverhampton は、産業革命以降、ロンドンとアイルランドの経由地になったことによって、発展した町である。鉄製製品、鋳前、漆製品、機関車工場、近年では、航空宇宙産業の拠点を持っている。白人以外の民族が3

割以上居住する多民族化が進んでいる地域である。ハイテク産業がある一方、貧富の差が深刻で、イングランドでも最悪レベルの貧困地域を有している。紆余曲折を経て、現在では、深刻な貧困問題を抱えるこの街で、Wolverhampton Wanderers は、130 年以上の歴史を紡いできた。現在は、下部リーグ所属しているが、それも含めて、クラブの歴史として、この街が支えているのである。

仙台は、古くから東北の中心都市として発展してきた町である。第二次大戦後は、復興と発展を果たし、政令指定都市として 100 万人の人口を抱える都市になる。1993 年の J リーグ開幕に触発され、東北に J リーグクラブを作ることを目的にクラブが設立された。クラブの歴史は 20 年足らずだが、東北の公共財として、その存在感を着実に定着させてきている。地域の状態からすると、人口、経済、教育水準など、Norwich や Wolverhampton よりも良好であることが分かった。

【考察】

クラブとそれを支える地域社会には、様々な共通点や相違点をもつ特徴があることが分かる。また、日本のクラブにとっては、イングランドは、サッカー先進国であり、格差社会の先進国であり、多民族化の先進国であり、今後の日本社会が直面する課題に先行して取り組んでいる点において、非常に参考になる存在である。逆に日本は、高齢化の先進国であり、歴史の無い身軽さ故にできる先進的な運営は、イングランドのクラブ、特に地方の小規模クラブにとっては、参考になる可能性を秘めている。したがって、地域社会の特徴を軸にクラブ運営を研究することは、今後のサッカークラブの運営にとって、非常に有意義なことである。

今後は、本研究を踏まえ、クラブにコミットメントしている人々の属性を調査し、それらの人々と地域、クラブの関係性を研究することが必要である。加えて、さらに多くのクラブと地域社会を調査研究することによって、今後のクラブ運営にとって有意義な、さらに多くの知見を蓄積することが大切である。